

昭和59年(1984年)1月31日
南岸低気圧による大雪
(大阪府、兵庫県などで大雪)

～ 「自らの命は自らが守る」 社会を支える取組 ～

大阪管区気象台



大雪による交通障害が多数発生。人的被害も多数。

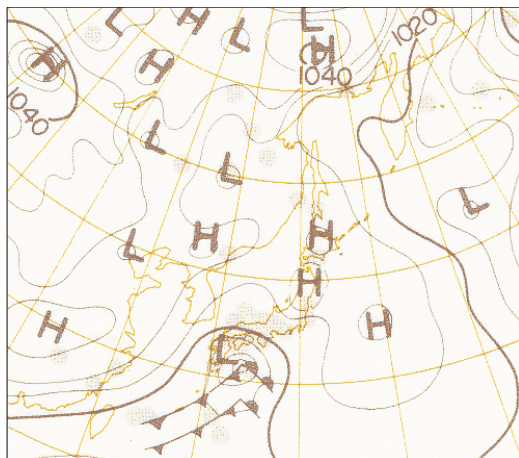
(高速道路や一般道路で通行止め多数、鉄道やバス、航空便も多数運休。転倒や交通事故により死者1名ほか負傷者多数。雪の重さによる農業用パイプハウスや農作物への被害も発生)

【概要】

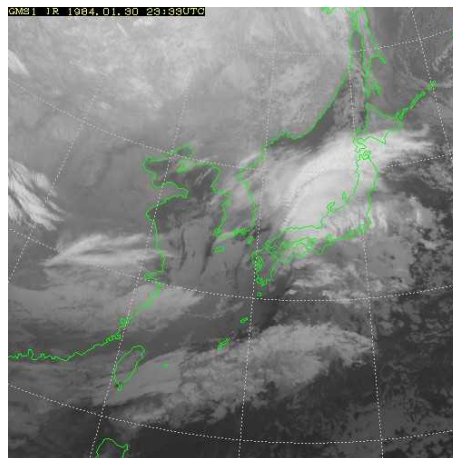
昭和59年1月30日に東シナ海で発生した低気圧は発達しながら東北東に進み、31日09時に四国の南海上を通過して同日21時には房総半島の南海上に達した。この低気圧の通過に伴い上空には寒気が流れ込んだため、近畿地方では31日未明から大雪となった。

大阪府と兵庫県の気象官署における31日の「降雪の深さ日合計」は、大阪で18センチ(極値順位1位、統計期間：昭和28年1月～)、神戸で10センチ(極値順位2位、統計期間：昭和28年1月～)、姫路で23センチ(極値順位1位、統計期間：昭和28年1月～平成15年2月)、洲本で17センチ(極値順位1位、統計期間：昭和28年1月～平成15年2月)となった。

この大雪により、大阪府と兵庫県では有料道路や国道、一般道路の通行止めが多数発生したほか、鉄道も運休や一部運休、航空便の欠航などが発生した。また、転倒や交通事故等により死者1名、負傷者多数。農業施設や農作物への被害、停電なども発生した。



地上天気図
(昭和59年1月31日09時)



衛星赤外画像
(昭和59年1月31日09時)

雪がもたらす災害

積雪害	鉄道や道路に雪が積もり交通障害をもたらす。また交通障害に伴い、生活・企業活動への影響を及ぼす。農作物への被害など。
風雪害	吹雪によって視界が悪くなり、交通障害や事故をもたらす。
雪圧害	積もった雪の重みで家屋・施設が倒壊したり、果樹などの枝が折れて損傷する被害。
雪崩害	斜面の雪の一部が崩壊してもたらされる災害。
着雪害	湿った雪が送電線や通信線に付着して、その重みで断線したり、鉄塔や電柱などが倒壊する被害。また樹木等にも湿った雪が付着して、その重みで枝が折れて損傷する被害。